



ナフサ不足で切羽詰まった業者に支援を
上野 公悦(日本共産党議員団)



Q 中東情勢の緊迫化が全産業の経営に深刻な影響を及ぼしている。特に建設関連事業者はナフサ由来の資材の不足や異常な値上がりによって「仕事があっても仕事ができない」等、切羽詰まった状況に追い込まれている。原料メーカーによると、溶剤系塗料が約3割、シンナーに至っては75%もの大幅な値上げとなっている。信用調査機関は、新たなオイルショック倒産が発生する可能性が十分にあると指摘し、特に塗装業は危機的な状況になると警告している。市は国の補正、市の基金などを活用して真水給付を含めてあらゆる支援策を行うべきではないか。

A 中東情勢の悪化に伴い、事業者を取り巻く環境は一層厳しさを増している。商工会議所などから聞き取りを行うなど、実態把握に努めており、現時点で資材調達が直ちに困難という状況にはないと認識しているが、先行きの事業運営を懸念する声が多く寄せられている。この状況が市内経済全体に波及し、経営基盤の脆弱な小規模事業者等に大きな影響を及ぼすおそれがあるため、きめ細やかな実態把握に努めていく。

地域独自予算事業の新たな制度検討状況は

Q 新たな制度の検討状況はどうか。

A 補助率や提案期限のほか、地域活動の継続性にも配慮して制度設計を進めていく。



新型コロナワクチン接種後の健康被害状況は
伊崎 博幸(参政党)



Q 副反応疑いの報告件数と、予防接種健康被害救済制度の申請状況はどうか。

A 副反応疑いの報告は30件、救済制度の申請は21件である。

Q 市のホームページ等で救済制度の申請の流れなどについて、より分かりやすく丁寧に発信しているかどうか。

A 内容の充実に取り組みたい。

予防接種健康被害救済制度

死亡認定数

2026年4月30日時点

※新型コロナワクチンを除く
これまでの全てのワクチン
(期間：1977年2月～) 約49年間

174件

新型コロナワクチン
(期間：2021年2月～) 約5年間

1,070件

※新型コロナワクチン「死亡」申請

1,971件 →

認定 1071件
否認 730件

審査未了

170件

トイレのネーミングライツでコスト削減を

Q ネーミングライツの導入について、調査・研究する考えはないか。

A サウンディング型市場調査を実施し、需要が見込める場合は導入を検討する。



「上越総合運動公園」野球場の建設は?
高山 ゆう子(市民クラブ)



Q 運動公園は上越インターや高規格道路に近く利便性が高いが、どのような位置付けか。

A 都市公園であり、スポーツや交流の場としてまちづくりの重要な役割を担う場所と考える。

Q 20年に渡る未利用地の管理状況はどうか。

A 20年500万円で草刈り等の管理をしている。20年間で1億円の管理費が掛かっている。

Q 施設の建設開始まで、花畑やドッグラン、グラウンドゴルフ場などで短期的に活用できないか。

A 検討したいが、本来用途で早く使いたい。スポーツ競技を通じた交流

Q 人口の増加が期待できる。野球場や防災機能を含めた多目的なスポーツ施設の早期着工を願う。

(謙信公武道館西側の未利用地)



「起立性調節障害」を知ってほしい!

Q この障害は思春期に多く見られ、朝起きられない等、自律神経の機能不全疾患から「怠けている・甘えている」等と誤解されやすく、孤立し不登校にも繋がる。当市の実態と認識、周知・啓発はどうか。

A この障害がある児童生徒の在籍は承知しているが、学校での調査はしていない。学校内での配慮はもちろん、今後は市のHPに項目を作り掲載し、市民に対して広く周知・啓発していく。

